京都力の発揮

（1）人づくり　次代の京都を担う人や、世界を舞台に活躍する人づくりの京都へ

現状・課題

◇京都府には、大学や世界的な研究機関が数多く立地しており、こうした研究機関間、異分野間の更なる交流促進の取組が求められています。

◇近年、若者の間に内的志向が見られ、国際感覚やコミュニケーション能力を身につけるための機会を得にくい状況となっています。

◇伝統産業や農林水産業をはじめ様々な分野で、専門的な知識や技能を身につけるためのしくみを更に拡充することが求められています。

◇京都の強みである観光や、映画・映像芸術などの新しい分野で、成長をリードしていく専門的な人材の育成や、人材間の交流ネットワークづくりが求められています。

◇まちづくりをはじめ、地域における様々な住民活動に参画する人が増えており、そうした活動を牽引する地域リーダーの更なる育成が求められています。

◇日本に来る留学生の数が増加傾向にある中、京都府は、留学生の数で全国の上位にあり、こうした人材を地域社会の様々な営みに積極的に参画させるしくみの拡充が求められています。

対応方向

○がん治療、食糧・バイオなどの分野で、世界に貢献する最先端の学術研究を推進します。

○ 若者の海外留学などを促進し、世界を舞台にグローバルに活動する人材を育成します。

○伝統産業や農林水産業を支える人材を育成するための教育機関の設置や、実践技術の習得支援の充実、新たな分野の専門人材を育成する人材バンクの創設を進め、分野ごとの発展を牽引する専門人材を育成します。

○公共人材養成プログラムづくりなどを通じて、地域に根ざして活動する優れた地域リーダーを育成します。

○留学生の生活支援や就職支援を拡充するとともに、地域活動やボランティアへの参画を促すなど、多彩な人材を京都のために活用します。

（２）環境の「みやこ」　持続可能な人類社会のモデルとして、世界の範となる環境を実現する京都へ

現状・課題

◇グローバルな気候変動を引き起こす二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量は、地球全体で増え続けています。

◇経済発展とともに増加した廃棄物の量は、減少傾向にはあるものの、依然として高止まりの状態にあります。

◇化石燃料に多くを依存した多エネルギー・大量生産・大量消費・大量廃棄型のライフスタイルからの転換が求められています。

◇地球環境問題に対応する新しい技術・製品・サービス等の開発・普及には、なお進展の余地があります。

◇京都府は豊かな自然環境に恵まれていますが、農山村地域では過疎化・高齢化が進む中、手入れされず放置される森林が増加しており、こうした自然環境を保全していく取組の拡充が求められています。

◇ライフスタイルの欧米化が進む中で、町家暮らしに代表されるような、四季折々の自然の変化と調和して暮らしてきた生活文化の価値を今一度見つめ直し、次世代に継承していくことが求められています。

◇子どもの頃から環境について学習・体験できる機会を学校や地域の中で拡充していくことが求められています。

◇在来生物の生息地の破壊、外来種の繁殖などによる生物多様性への脅威が高まっており、地域固有の自然や生態系を保全するための取組を、多様な主体の協働によって進めていくことが求められています。

対応方向

○府民のライフスタイルの転換を促すとともに、環境関連製品等の生活への導入を進め、化石燃料への依存を極力抑えた持続可能な低炭素社会をつくります。

○産業廃棄物減量促進の拠点となるセンターの開設などにより、リユースやリサイクルの資源循環のしくみを確立し、循環型社会を形成します。

○地域住民、ＮＰＯ、企業等と連携・協働した取組を進め、優れたまち並みや景観、自然環境や生活環境を創出します。

○エコ住宅の建設、きものの着用、地産地消など様々な生活の取組を総合し、自然環境と調和した暮らしを推進します。

○環境学習、環境イベント、環境交流などの取組を積極的に推進し、人々の環境意識を高めます。

○生物多様性地域戦略の策定などにより府民理解を促すとともに、府民協働で希少野生生物の保全回復を図るなど、生物多様性を保全します。

（３）文化創造　豊かな伝統文化を継承し、新しい文化が次々と萌芽する卓越した文化力のある京都へ

現状・課題

◇京都には、貴重な文化財や古典が数多く引き継がれ、また、様々な宗教の本山、茶道、日本舞踊の家元、能・狂言の各流派などが集積し、日本の精神文化の拠り所となっていますが、それらに裏打ちされたきもの、伝統工芸、京料理などの文化が日本人の生活の中から少しずつ失われようとしています。

◇ライフスタイルの欧米化が進む中で、特に若者を中心として、京都文化（日本文化）への関心や、ふれ合う機会が少なくなっています。

◇府内各地の歴史等に根ざした個性豊かな祭礼行事、伝統芸能などの伝統的な地域文化が少しずつ失われようとしています。

◇地域社会の絆の希薄化や過疎化の進行に伴う後継者不足により、伝統的な地域文化に人々がふれ合い、体験する機会が少なくなっています。

◇アニメーションなどの新しい文化の創出につながる文化・芸術活動や、スポーツ振興などの取組の更なる拡充が求められています。

◇芸術家などが自らの作品を新たに発表するとともに、府民が文化・芸術活動やスポーツを身近に楽しめる場所や機会の拡充が求められています。

対応方向

○京都文化を体感できる場の整備や、観光、ファッションなど他の分野と連携した文化発信の取組を進め、京都文化を継承し、発展させます。

○国民文化祭の開催等を契機として、祭礼行事・伝統芸能などの復興や活動支援を進め、地域の文化を守り、発展させます。

○府内各地の文化拠点や公園・スポーツ施設の整備などを進め、新しい文化・芸術、スポーツを振興します。

（４）産業革新・中小企業育成

京都経済を支える中小企業が安定した経営を行う中で、未来を切り拓く産業のイノベーションが進展する京都へ

現状・課題

◇京都には、伝統産業や世界的なハイテク企業が数多く集積し、ものづくり産業の一大拠点を形成していますが、京都経済の成長は鈍化傾向にあります。

◇製造業の多くが成熟産業化しつつある中で、世界的なハイテク企業に続く新たな企業の成長・発展が期待されています。

◇経済成長著しい中国をはじめとするアジア地域の需要を獲得するための戦略的な取組が求められています。

◇世界的な不況の影響もあって、京都経済を支える中小企業や地場産業が厳しい経営環境にさらされています。

◇グローバルな競争が激化する中で、中小企業や地場産業が競争に打ち勝つための投資資金を確保することが難しくなっています。

◇京都を訪れる観光入込客数は京都市内を中心として増加傾向にあり、こうした動きを府全域へ展開していくことが求められています。

◇従来の画一的な「物見遊山」型観光から、個々人のニーズに合わせた「参加・体験」型観光へと観光ニーズが多様化・高度化する中、世界規模での観光地間競争が激化しています。

◇府全域への観光誘客のために、観光資源の魅力の向上とともに、二次交通アクセス等のインフラ整備や誘客プロモーションの実施、観光産業の担い手となる人材の育成などが求められています。

◇京野菜や黒大豆・小豆、丹波くり、丹後とり貝等の「京のブランド産品」全体の販売額は近年、伸び悩み傾向にあり、新たな展開が求められています。

◇宇治茶については、日本を代表する高級ブランドとして広く流通していますが、全国的な茶価の低迷の影響が出始めています。

◇農林水産物の産地間競争や消費低迷などに対応するため、新たな販路開拓や新商品開発など、収益性を高める取組が求められています。

◇農業就業人口の減少と、全国を上回る高齢化が進行する中、将来を担う若者が魅力を感じる農業のビジネスモデルの創出が求められています。

対応方向

○環境、健康、コンテンツなど世界経済の成長分野を軸にして、産学公連携による研究・技術開発を進め、京都の特性を活かしたブランド産業を育成します。

○中国において試作やエコ、ウエルネスの販路開拓の支援拠点を設置するなど、世界との産業交流を進めます。

○中小企業の高度化や人材育成、技術開発などに大規模な投資を行うなど、地域に根ざして京都経済を支える中小企業を守り、発展させます。

○観光交通機関の導入やインセンティブツアー等の誘致、おもてなしマイスターの養成や学び観光コースの開設などにより、質の高い観光への進化を図り、京都観光を成長・発展させます。

○収益向上のための技術革新やさらなるブランド化、新商品開拓とともに、アジア地域等の海外市場の開拓を進め、農林水産物の付加価値を高めます。

○人材育成や商品開発、販路・市場開拓など総合的な支援を展開し、農林水産業を基軸として産業を活性化させます。

（５）交流連帯　府域の内外を快適に移動でき、世界中から人々が集い交わる京都へ

現状・課題

◇高速道路のミッシングリンク（不連続箇所）や鉄道単線区間が存在するなど基幹的な交通基盤が未だ整備途上であり、地域間交流や物流の活性化の支障となっています。

◇過疎地域などにおいて、人口減少等により多くの公共交通機関の採算が厳しくなる中、路線廃止等により、高齢者や子どもの移動手段を確保できない地域が出てきています。

◇京都における国際会議の開催件数は増加傾向にあり、それらの機会を十分に活用し、国際交流の更なる拡大につなげていくことが求められています。

◇国際交流の拠点となる施設の整備や、海外の機関との提携・連携の促進、人的ネットワークづくりなどが求められています。

対応方向

○高速道路の不連続箇所を早期に解消するとともに、鉄道の利便性を向上し、府域の内外を移動しやすくします。

○府民の支援と協力のもとに公共交通機関の利用拡大を図り、暮らしの足を確保します。

○関西文化学術研究都市への研究機関等の立地や、アジアのサイエンスパークとの提携等を進め、京都を文化学術研究の交流拠点とします。

○京都迎賓館の有効活用や国際会議場等の整備を進め、世界の優れた人材が京都に集まるようにします。

（６）希望に輝く地域づくり　夢のある地域構想が展開する京都へ

現　状　・課　題

◇東京をはじめとする大都市に企業や人口が集中する一方、地方では企業や工場の撤退に伴って、若者を中心に就業機会を求める人々の都市部への流出が続いています。

◇製造業の停滞や公共事業予算の縮減という時代の流れの中で、工場立地や公共事業により地域の雇用や経済を支えるという従来の手法が成り立たなくなっています。

対　応　方　向

○すべての地域が活力ある地域として輝くことができるように、地域の個性や資源を最大限活かして、夢のある地域創造プロジェクトを展開します。

○地域ごとのプロジェクトの効果を府域全体に浸透させるため、それらを有機的に結び付ける交流・連携プログラムを進めます。